

J-26

環境繊維都市
- アパレル産業における消費者・生産者に対する啓発施設の提案 -
Textile city environment

Educational facility proposed for the producers and consumers in the apparel industry

佐藤信治¹, ○海藤航²
 Shinji Sato, Wataru Kaito

I want more interested about the preciousness of things. I want you to know that many people are involved in one thing. It is precisely because Japan is a country of manufacturing.

Waste will continue to be discharged on a daily basis in modern mass consumption society, has been increasing. Increase of waste in the apparel industry has been cited as a serious problem among them. Have also reached 2.1 million tons per year, emissions, this is worth three times the amount of waste home appliances in four items. The background of the increase of waste, a change in the consciousness of consumers and producers in the industrial structure of the apparel industry issues and can be given to the cause. We must know the current status of waste that is generated in the back of mass consumption.

In this project, we propose for the purpose of reduction of waste in the apparel industry, the facilities to aggregate production, sales, and disposal there.

1. はじめに

物の尊さについてもっと関心を持ってほしい。もの一つに多くの人々が関わっていることを知ってほしい。モノづくりの国である日本だからこそ。

現代の大量消費社会において日常的に廃棄物は排出され続け、増加の一途をたどっている。その中でもアパレル産業における廃棄物の増加が深刻な問題としてあげられている。排出量は年間 2 1 0 万トンにも及んでいて、これは家電 4 品目における廃棄量の 3 倍に値する。廃棄物の増加の背景には、アパレル産業の産業構造の問題や消費者・生産者の意識の変化が原因にあげられる。私たちは、大量消費の裏で廃棄物が発生しているという現状を知らなければならない。

そこで本計画では、アパレル産業における廃棄物の削減を目的とした、生産・販売・処分を集約した施設を提案する。

2. アパレル産業とは

アパレル産業とは衣服産業あるいは外衣産業のことであり、衣服の原料の生産から販売までの流通段階を行っている産業である。原料生産などの素材産業である「川上」、素材を使った衣服の製作、製品の卸売を行う「川中」、製品を販売する「川下」の 3 つの工程に代別されていて、各工程の中でも分業化が図られていることから、一つの製品を完成させるまでに関わる企業の数が多いことが特徴である。

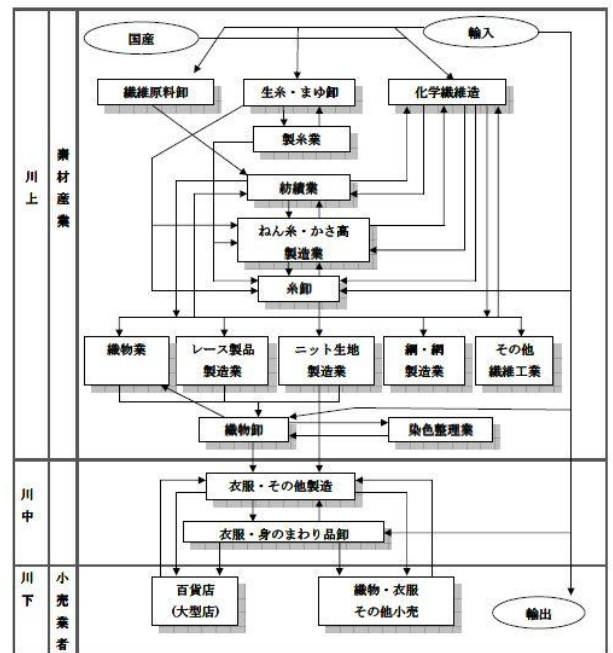


Figure 1. Flowchart of processing, distribution and consumption of textile production

3. 計画背景

3 - 1 多段階性流通構造

アパレル産業は従来から、糸・織布・染色・縫製など各企業が特定の工程に特化した多段階工程分業を行ってきた。しかしこれらは大量生産を前提としたものであり、国内生産の縮小した現在において各企業を結び仲介業者が衰退したことから、産地同士の連携が不

1 : 日本大学・専任講師・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering,CST.,Nihon-U

2 : 日本大学・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & Engineering,CST.,Nihon-U

足し産地が孤立化，結果生産地に消費者動向が伝わらなくなり，消費者のニーズを無視した商品が生産されるようになった．このことが売れ残りや在庫の発生を引き起こし，結果廃棄物の発生へとつながっている．

3 - 2 消費者の意識

アパレル製品が街中にあふれている現在，商品の低価格化に伴う商品価値の低下や流行の移り変わりの早さが，シーズンごとの買い替えや使い捨てなど，消費者のモノに対する尊さへの欠如という意識の変化を生み出す原因となっている．このような意識の変化は，素材や技術への関心の低さや商品の短サイクル化を促し，廃棄物の発生の原因へとつながっていく．

4. 敷地

4 - 1 敷地選定

施設の批評性から日本の一大消費地であること，消費の歴史が深いこと，消費問題を伝えるための情報の発信力がある場所を対象敷地とし敷地選定を行う．

4 - 2 東京都渋谷区



Figure 2. Shibuya

渋谷区は 1934 年の東横百貨店の開業に始まり，1956 年の東急文化会館，1968 年の西武百貨店など消費の歴史は深く，現在はパルコ・109・QFRONT・渋谷マークシティなどの大型商業施設が立ち並ぶ一大消費地となっている．また 2009 年からの「渋谷新文化街区プロジェクト」によるヒカリエのオープンなど新たな消費活動を生みだし続けている．



Figure 3. Transition Shibuya

また渋谷区を中心とする広尾・松濤・恵比寿・千駄ヶ谷までの地域には，三万人近い高収入のデジタル系クリエイターが住み，さらにその周辺には関連の仕事につく人々や予備軍の学生が三〇万人ほど集まっていることから，高い情報の発信力のポテンシャルがある．

5. 基本計画

5 - 1 生産現場の集約

工程間分業によって，工程間の連携が希薄化していたことが廃棄物の発生の原因につながっていることから，各生産現場を一カ所に集約する必要がある．集約することで各工程間の連携が強くなり，消費者の反応や情報などを直に感じる事が可能となる．このことが消費者なしの商品の生産を抑制し，結果廃棄物の減少へとつながる．

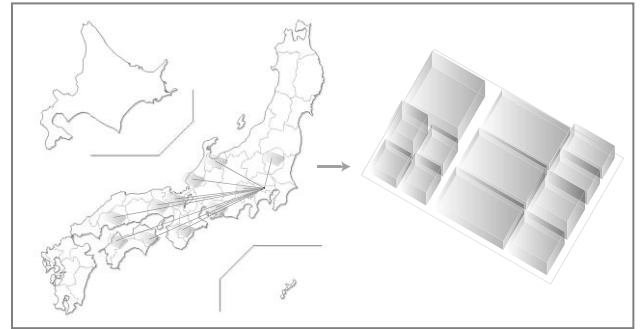


Figure 4. Intensification of the region

5 - 2 生産と販売の一体化

低価格販売や流行の移り変わりの早さ以外に，消費者の産地への関心の低さも，消費の短サイクル化の原因として考えられる．そこで生産現場と販売を一体化することを提案する．生産現場を実際に見ることで，消費者はアパレル産業の実態を把握することができ，素材や技術による商品の価値を再認識することができる．

5 - 3 廃棄物処理施設

生産現場と販売だけでなく廃棄物処理施設も一体化させる．生産者と消費者のそれぞれの問題が廃棄物の増加の問題へとつながっている．現在の服の行方，服の最終工程である処分現場を生産者と消費者が実際に見ることで，それぞれがモノの尊さをより意識するようになる．

6. 参考文献

- [1] 図解アパレル業界ハンドブック，2004.
- [2] 日本の衣服産業：衣料品の生産と流通，1975.
- [3] アパレル産業への離陸：繊維産業の終焉，1977.
- [4] 衣服の供給と消費，1992.